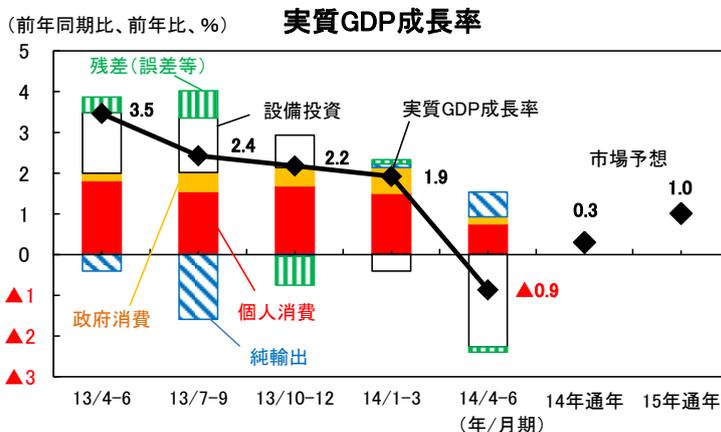


今日のトピック 最近の指標から見るブラジル経済(2014年9月) 景気は緩やかながら回復に向かう見込み

ポイント1 4-6月期はマイナス成長

消費と純輸出は景気を支える見込み

- 4-6月期の実質GDP成長率は前年同期比▲0.9%と、マイナスに転じました。需要項目別の寄与度を見ると、設備投資のマイナスが拡大したほか、個人消費のプラスが縮小しました。ブラジル中央銀行(以下、中銀)の利上げ(昨年4月以降合計3.75%、現在の政策金利は11.00%)が主な内需抑制要因になったと見られます。一方、純輸出(輸出-輸入)はプラスが拡大しました。
- 賃金の上昇などを背景に個人消費はプラス寄与が続くと見られます。米国や中国などの景気が底堅く、純輸出も景気を下支えすると見られ、景気は緩やかながら回復に向かう見込みです。



(注1) グラフ中の数値は実質GDP成長率。内訳は寄与度。
 (注2) 市場予想は、ブラジル中央銀行が9月22日に発表した調査結果。
 (出所) ブラジル統計局、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント2 物価上昇率は高止まりが続く見込み

公共料金の引き上げなどが要因

- 9月前半の消費者物価指数は前年同月比+6.62%と、中銀の目標レンジ(年+2.5%~+6.5%)上限を上回りました。内訳では、サービスが同+9%台に上昇したほか、電力料金引き上げなどから住宅が同+8%台と高止まりました。
- 中銀は、賃金上昇や公共料金引き上げなどの影響が和らぐには時間がかかると見ており、物価上昇率は高止まりが続きそうです。



(注1) データは2011年9月~2014年9月。2014年9月は月前半。
 (注2) 市場予想は、ブラジル中央銀行が9月22日に発表した調査結果。
 (出所) Bloomberg L.P.、ブラジル中央銀行のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 経済政策の刷新により、中長期的な海外からの投資拡大に期待

- 中銀は9月3日、5月以降3会合連続となる政策金利の据え置きを発表しました。中銀の調査では物価上昇率の高止まりが来年も続くと見込まれています。中銀は景気に配慮しながらも、政策金利を当面現在の高水準で維持すると思われます。
- ブラジルでは、10月に大統領選挙が予定されています。利下げによる景気支援が期待しづらい

なか、2期目を目指すルセフ現大統領は苦戦しています。一方、ブラジル社会党のシルバ氏が財政再建や物価目標の重視といった透明性の高い経済政策を掲げて善戦しています。経済政策の刷新は中長期的な海外からの投資拡大につながり、消費と純輸出とあわせて景気回復の支援材料として期待されます。

ここもチェック!

2014年09月17日【キーワード No.1,415】ブラジル大統領選挙(ブラジル)
 2014年09月04日【デیلیー No.1,946】ブラジルの金融政策(2014年9月)

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。